

教育ICTを用いた授業づくり

—iPad miniを活用した社会科学習におけるフィールドワークの可能性—

村 橋 直 樹 (文教大学教育研究所客員研究員)

今 田 晃 一 (文教大学教育学部)

Creation of Lessons through Utilization of Education ICT -Feasibility of Field Work in Social Studies Classes by Application of iPad mini-

MURAHASHI NAOKI, IMADA KOICHI

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)
(Faculty of Education, Bunkyo University)

1. はじめに

平成23年4月に、「教育の情報化ビジョン」が取りまとめられ、情報教育の充実、ICTの活用など学校教育の情報化の着実な推進に向けた取り組みが示された。ここでは、2020年度までに、児童生徒に対して一人一台の情報端末の整備を行う構想が目標として示された。つまり学校教育におけるICTの効果的な活用が緊要性の課題とされている。「教育の情報化ビジョン」の中では、付けたい力を「生きる力」だけでなく「ATC21S」も含まれている。「ATC21S」には、情報リテラシーも主な技能の1つとされ、ICTを活用した授業作りをしていくことが望まれている¹⁾。教育の情報化を推進するため、文部科学省の「学びのイノベーション事業」と総務省の「フューチャースクール推進事業」との連携による総合的な実証研究の実施などが示され、様々な実践が行われてきた。

平成25年には、「日本再興戦略」「世界最先端IT国家創造宣言」「第2期教育振興基本計画」が閣議決定され、政府として教育の情報化を推進していくことが示された。このうち、「第2期教育振興基本計画」では、確かな学力を効果的に育成するため、ICTの積極

的な活用をはじめとする指導方法・指導体制の工夫改善を通じた協働型・双方向型の授業革新の推進など、ICTの活用等による新たな学びを推進することが示された²⁾。

小学校学習指導要領社会編では、「児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動のいっそうの充実を図ること」と明記されている³⁾。小学校第3学年および第4学年の社会科は、地域を題材として取り上げる。児童が自分たちの住んでいる地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境、安全を守るための諸活動などを理解することで地域社会の一員としての自覚を持てるようにすることがねらいである。また、身近な地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解し、地域社会に対する誇りと愛情を育てていくことがねらいである。

このような学習では現地に出向いてのフィールドワークが有効であり、児童は教科書や副読本と学習したことを実際に自分の目で見たり体験をしたりしながら理解を深めていく。その際、タブレット型情報端末は事前ガイド

ンス、撮影、検索、データ蓄積の面から最適なツールであると考えられる。

ICTを活用することは、情報活用能力を育むことになり、タブレット型情報端末を用いるグループ学習の実現によって、お互いに影響を与えながら高め合う相互啓発を図ることにもつながると考え、以下の実践をした⁴⁾。

2. iPad miniの有用性

平成22年5月に発売されたタブレット型情報端末であるiPadは、その大きさや機能において学習者同士が学び合い、教え合う「協働学習」を促すことに有用なICTである。タッチパネルを用いた直感的な操作や短期間の指導により操作方法を習得することができ、学習の妨げとならない。一方で、現地学習においては、機能面、操作性、小学生の手の大きさに合った携帯性の観点からも、iPad miniが有用である⁵⁾。iPad miniとiPadは大きさ以外に機能面では大きな差は無い。

主な仕様を表1にまとめた。本実践で用いたのはiPad mini（第1世代）であるが、同じ時期に発売されたiPad（第3世代）と比較をすると、重さでは倍の差があった。小学3年生で実践を行ったが、652gものiPadを携帯させて社会科見学に行くには落下による破損の可能性や腕が疲れるなどの重量面で課題がみられる。

その点、iPad miniはカメラの画質もiPadと同じであり、一般的なデジタルカメラに近い画素数で撮影することが可能である。学校配備のタブレット型情報端末は5台であり、Windows8であることから児童が慣れ親しんでいるコンピューター教室のWindows7と仕様や操作方法が違うため戸惑いが見られた。また、ネットワークの接続が安定しないなどの誤作動も多く、その重量が850gもあることから小学3年生の活用時には不向きであると判断した。一方で、学校配備のデジタルカメラは、40台配備されており児童が1人ず

つ使用することができる。しかし、撮影した写真の共有や動画資料の確認、インターネット接続などはできずバッテリーの駆動時間も2時間であり長時間の学校外でのフィールドワークには向いていない。これもiPad miniを選択するきっかけとなった。

実践で仕様したiPad miniには落下による破損防止のため、防水・防塵効果のある保護プロテクターを装着し、常に首から下げることができるようにした。重量が308gであり、保護プロテクターも軽量だったため児童の負担にはならず、多少の天候不良でも使用することができた。また、フィールドワーク先まで電車と徒歩で1時間かかるが、歩きながら左右に揺れても破損することはなかった。電車内など狭い空間では、首から下げたiPad miniがぶつかるなどしていたが、保護プロテクターがあり破損は発生しなかった。小学生の活用に関しては、破損防止の観点からも保護プロテクターの使用が望ましい。

iPad miniはiPad同様、Wi-Fiを通してインターネットに接続することが可能であることも大きい。昔の道具や用法の説明を受けても分からないことがあった際に、イラストなどのイメージが無いと理解が深まらない。現地で説明を受けた際、分からなかった場合にはイメージを持てるようにインターネットで調べることができると見学の質がより深まると考える。

また、GPS機能を生かして地図アプリで現在位置を確認し、地理的な特色を理解するためにもWi-Fi通信は必要である。

そこで、今回のフィールドワークでは、モバイルWi-Fiルーターを3台導入し、引率教師が1台ずつ持つことで持参したiPad miniすべての通信が常時可能な状態とした。インターネット回線を経由して児童の撮影した写真や学んだことを教師用iPadで確認することができ、各グループの進捗状況がリアルタイムに把握することができたことから、状況

表1 iPad mini、iPadの使用比較（2014年度）

	文教大学借用 iPad mini (第1世代)	文教大学借用 iPad (第3世代)	越谷市立学校配備 タブレット型情報端末 FMVNO8P1	越谷市立学校配備 デジタルカメラ Nikon COOLPIX S31
発売年	2012年	2012年	2014年	2013年
画面	7.9インチ	9.7インチ	11.6型ワイド	2.7型TFT
CPU	Apple A5 2コア1.0GHz	Apple A5X 2コア1.0GHz	インテル Core i5-3427U	
メインメモリ	512MB	1GB	4GB	
液晶画素数	1024×768	2038×1536	1366×768	
カメラ	1080pHD 500万画素	1080pHD 500万画素	500万画素	720p 1014万画素
バッテリー	最長10時間	最長10時間	約4.6時間	約2時間
サイズ	200mm（縦） 134.7mm（横） 7.2mm（厚）	241.2mm（縦） 185.7mm（横） 9.4mm（厚）	195mm（縦） 302mm（横） 12.7mm（厚）	105.4mm（縦） 64.8mm（横） 41.5mm（厚）
重さ	308g	652g	850g	185g

に応じた声かけが可能となった。

3. 実践事例 小学校3年社会科「今に残る昔とくらしのうつりかわり」

本実践では、越谷市大間野町にある旧中村家住宅でのフィールドワークを中核にし、(1) 事前調査、(2) 事前学習、(3) フィールドワーク、(4) 事後学習の4つの過程で構成していった。なお、本小単元の評価基準、指導計画と評価計画、ワークシートは巻末、参考資料を参照されたい。

3.1 事前調査

実践を始める前に、児童に事前調査を行った。以下は、その質問項目の一部である。

質問1 どんな社会科の学習をしたいですか

- ①ICT 機器を使う…22人
- ②見学や体験をする…6人
- ③遠足に行く…1人

事前調査は、本小単元の学習を進めるに当たって児童が意欲的に取り組むことができる学習方法を検討するために問うたものである。「ICT機器を使った学習を行いたい。」と答えた児童は22人と約8割を占めている。社会科の授業では、iPad miniのインターネット検索機能を活用して資料の収集・活用・整理を行っている。このことから、児童が学習問題の解決に必要な情報を検索し、収集するこ

とは全員が行うことができている。資料の収集を行うときに、情報モラルを合わせて指導することで、必要な資料を検索収集する際に、分析や選択を行い、検討・吟味する能力を身につけた児童が増えてきた。地域学習の際にGoogle earthを利用して地図、航空写真、ストリートビューを用いて仮想的な見学を取り入れた学習を展開していることも興味を持てた理由として考えることができる。この結果より、本小単元の学習でも見学・体験的活動やICTを活用した授業を展開し、児童が意欲的に学習に取り組めるように支援した。また、資料を提示するときには、ICT機器を積極的に活用し、対象のイメージをもてるようにしてきた。

本小単元の学習でも、より一層の興味関心を持って学習に取り組むことができるように学校に配備されている大型TVの他に文教大学と連携し、iPad miniを取り入れた。暮らしに関する道具でテーマ別に設定した3～4人の班に1台のiPad miniを使用し、社会科見学先である大間野町旧中村家住宅でのフィールドワークでの活用や、デジタルコンテンツを見ながらイメージを膨らますなどのグループでの学びを深めることのできる協働学習を展開することにした（図1）。



図1 保護プロテクターを装備して
iPad miniを首からさげて活用

本実践における学習指導要領の位置付けは次の通りである。

目標は、「(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」である。

内容は、「(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」である⁹⁾。

3.2 事前学習の充実

大間野町旧中村家住宅は、江戸時代に旧大間野村の名主を勤めた中村氏の旧宅で、平成9年に越谷市が寄贈を受け、建築当初の姿に復元したものである。建物内には、昔の生活道具や農業機具などが展示されてある。

大間野町旧中村家住宅への社会科見学に向けて、事前に見学するところのポイントや展示物の確認、諸注意などをデジタルコンテンツとしてiPad miniに保管し、児童は繰り返し視聴することができるようにすることで、事前学習の充実を図ろうと考えた。

そこで、iPad用デジタル教材の作成ソフトであるiBooks Author等で作成したiPad用の事前学習用教材を基に、展示資料等を確認

しフィールドワークの際に深く調べるテーマやポイントを検討した(表2)。

①実地調査

事前に大間野町旧中村家住宅に実地踏査へ行き、展示物を写真に納め、職員の方から説明を受けた。一般的な社会科見学で「建物の特徴」「農業用具」「生活道具」の3つのコースに別れて説明を聞くことからデジタルコンテンツも3つ用意した(図2・3・4)。児童は教室で社会科見学へ行く前にイメージを持つことができ、調査対象により一層の興味関心を持つことができた。

次に作成したのは、社会科見学へ行く前の事前ガイダンスで使用した映像である。見学時の諸注意やフィールドワークでのアドバイスなど、見学時のポイントを現地でも児童が必要だと感じたときにいつでも確認することができるようにした。グループごとにポイントを再度確認することができることで、教師側の説明を短縮させ、グループへの指導や児童同士の対面による学びの時間を多く確保した。

デジタルの部分でイメージを持たせるだけでは、昔の道具について資料等を見て大変そうだと分かっている、どれくらい大変かということは実感することができない。

②洗濯板体験

そこで、単元の導入に洗濯板体験を行い昔の洗濯は、素手で洗っていたことや洗濯板に施された工夫から昔の人々がよりよい生活と願い、現在の全自動洗濯機へと繋がったということを味わわせた。

洗濯板体験では2足の靴下を用意し、同じように汚れをつけたあとに洗濯板で洗った場合と洗濯機で洗った場合を比較する。昔の人々がどのような思いで洗濯板を使っていたのかを考えながら、体験を行う。洗濯板体験の根幹には、現代のように電気や水道、ガスが完備されていない時代に手作業により行っていた歴史を学び、その大変さを打開しようとし

た先人の働きが現代社会の発展に寄与しているという背景を理解させることにある。デジタル面ではなく、アナログ面から導入を図り、

双方の良さを取り入れることでフィールドワークに対する意識も高まり、単元のねらいを達成しやすくなる。



図2 iBooks Author で作成した事前学習用教材：生活道具編 ※一部抜粋



図3 iBooks Author で作成した事前学習用教材：農業用具編 ※一部抜粋



図4 iBooks Author で作成した事前学習用教材：建物編 ※一部抜粋

③毎時間の振り返り映像

また、毎時間終了後に、その時間のまとめを振り返りの映像として追加することで、調べ学習時に児童が既習の学習内容を確認しやすいようにした。社会科見学などフィールドワークをとまなう学習においては、現地または実物に出会うまでのストーリーづくりが重要である⁷⁾。

表2 児童が調査するテーマ一覧

	選択したテーマ	旧中村家住宅で見つけるもの
1班	お米をたく	おかま
2班	料理をする	かまど
3班	食べ物を守る	はいちょう
4班	水を飲む	井戸
5班	音楽を聞く	レコード
6班	情報を楽しむ	ラジオ
7班	体をあたためる	火鉢
8班	明かりをつける	窓の工夫
9班	トイレ	くみ取り式トイレ

3.3 フィールドワーク

表3 当日のタイムスケジュール
(2015年1月22日)

時刻	内 容
8:30	大沢小学校出発
8:44	北越谷駅到着、乗車
8:49	蒲生駅到着、降車
9:15	大間野町旧中村家住宅に到着
9:20	旧中村家住宅の歴史等や展示物などの説明を聞く。
9:50	フィールドワークの説明を聞く
10:00	フィールドワーク開始 ・グループ別行動 ・建物の特徴 ・農業用具 ・生活用具 ・関連する展示物の調査、体験 ・職員への質問（各自）
11:00	フィールドワーク終了、トイレ等
11:10	旧中村家住宅を出発
11:42	蒲生駅到着、乗車
11:49	北越谷駅到着、降車
12:05	大沢小学校帰校

社会科におけるフィールドワークは、自然的、社会的、歴史的諸事象を直接的に観察することができる。直接的に観察、体験をすることで地域を理解する上で貴重な体験となる

⁸⁾。事前学習で設定したテーマを中心に、児

童は大間野町旧中村家住宅を見学し、道具を観察したりそれらの道具が使われていたところの生活の様子を聞き取ったりして調べた。そして、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えた。児童が疑問に感じたことをその場で解決を図ることができるように、職員の方へ質問をしたり、インターネットで具体物を調べたりしながら取り組んだ。実際に話を聞き、見学をすることで昔の人々の知恵や工夫を実感し、地域に対する誇りと愛情を持たせることができたと考ええる。

表3は当日のタイムスケジュールである。社会科見学先でフィールドワークを実施した。事前にフィールドワークを実施することを伝えてあるので児童は意欲的に取り組むことができていた。旧中村家住宅に到着後は、学年全員で職員の方から説明を聞き、歴史的背景や展示物について大まかな説明を受けた。その後の自由行動時間をフィールドワークの時間と位置づけ、児童がグループ別に調査を行った(図5)。

引率教師は役割を分担しており、1人が全体監督としてそれぞれのグループにアドバイスをを行い、あとの教師はモバイルWi-Fiルーターを持ちながらそれぞれの場所に立ち、旧中村家住宅の敷地内全域でWi-Fiが使用できるようにし、その都度アドバイスをを行った。小学3年生ではあるが、興味を持ったテーマを奥深くまで調べることができていた。これもiPad miniを用いたことで、学習意欲が喚起されたことも影響していると考えられる。

事前学習の成果としては、グループ別に当日の調べ方などをその都度iPad miniで確認し、引率教師は展示物の補足説明やアドバイス等や個別支援に専念することができたことである。また、目的意識を持って児童が取り組めたことで単なる見学で終わらず、調査活動や昔の道具体験を積極的に行うことができた。



図5 iPad miniを用いた旧大間野町中村家住宅内のフィールドワークの様子

3.4 事後学習の充実～振り返りムービー作り～

旧大間野町中村家住宅でフィールドワーク後には、グループで決めた1つの道具について年代ごとに比較をして調べた。父母や祖父父母への聞き取りを行い、昔の道具を使っていたころの様子を調べ、道具の変化における歴史的な背景を理解できるようにする。単元の終末には、調べたことをiMovieにまとめ、発表することで表現をさせる。iMovieには、「予告編」という1分程度のテンプレートが用意されており、画像や動画等、調べたことを配置するだけで誰でもが一定レベル以上のムービー作品をつくることができる。ムービーづくりでは、児童の発表に恥をかかせないことが大原則であり、iMovieを選んだのはこのためである⁹⁾。

児童は、各テーマ別に旧中村家住宅で調べる対象を1つに決め、その道具の移り変わりを祖父や父母への質問、インターネットや図書室の利用を通して現代までにどのように変化をしてきたのかを調べ、道具の移り変わりのスライドと、それを基にしたムービーを作成した。グループ活動だったため、お互いに協力しながら進めることができ、ムービー作りも総合的な学習の時間と連携させながら3時間程度で完璧に仕上げることができた(図6)。



図6 振り返りムービーの発表会の様子

4. 成果とまとめ

本実践であるフィールドワークやiMovieでの映像作成などを通して、児童が授業に対してより意欲的になり、単元のねらいに沿ったことが授業後のアンケートより分かった(表4)。

(1) 児童アンケートに見られる成果

iPad miniを活用することで小学3年生でも簡単に使用することができ、その利便性や機能性が証明された。児童にとって、社会科見学にiPad miniを介在させたことで、より興味を持って調べることができたと同時に、GPS機能を用いた地理的な特色やWi-Fiのアクセスポイントを用意したことで実物を見ながら、インターネットで昔の人の活用の仕方などを調べ、疑問を解決することができ、タブレット型情報端末のデバイスとしての有用性も実感できた。

(2) 保護者アンケートに見られる成果

なお、児童のiPad miniの活用について保護者にも同様のアンケートを実施した。表4はその一部である。保護者も我が子がグループで協働しながら学ぶことに好意的であり、意欲が向上したと答えていた。

(3) 実践の成果

今回の実践では小学3年生を対象として行ったが、操作性や機能面で大きなトラブル等はなかった。テーマ別グループに設定した上でのフィールドワークにより、児童はあらかじ

表 4 授業後アンケートのまとめ（抜粋）

児童対象 iPad mini を使った学習はどうだったか。

- ・楽しかった。
- ・みんなでやったフィールドワークが楽しかった。
- ・みんなで仲良く勉強ができた。
- ・ムービー作りが楽しかった。
- ・グループで協力してできた。
- ・旧中村家住宅に行ったとき、写真を撮ってプレゼンやムービーを作ったのが楽しかった。
- ・グループで意見を出し合ってまとめることができた。
- ・自分たちでもムービーが作れるんだと思った。
- ・旧中村家住宅で iPad で写真やビデオを撮ってムービーの材料を用意したことが面白かった。

保護者対象 iPad mini を使った学習はどうだったか。

- ・グループの人たちと意見を交えながら調べたりすることができたので、良かった。
- ・情報吸収量が多く、頭がやわらかいとされる3年生の時期に操作や活用方法を学ぶことができ、良かった。
- ・子どもたちは新しいものが好きだと思うので、意欲的に取り組んでいたのが印象的だった。
- ・言葉で説明するだけでなく、視覚的に説明ができるようになり、理解が深まった。
- ・グループで使ったことで、相談しながら取り組むことができる。みんなで協力して行うことは良いことだ。

め何を中心に調べればよいのかを押さえた状態で調査に臨み、調べることができた。グループで協働的に学習したことにより、相互啓発が図られ、児童の学習意欲に高まりを感じることができた。

本学級では、年度初めから継続してiPad miniを活用しており、本実践を行った1月の段階ではスキル面の質問等も無く、授業時間内に課題解決により専念できるようになったことも成果である。その結果として、年度末に実施した業者学力調査では前年度と比較して偏差値が大幅に向上し、グループ学習で相互啓発を図り、学習意欲が高まったことが結果として学力向上につながったのではないかと感じている。

(4) 課題

一方で、iPad miniでは動画再生やインターネット検索での処理速度が遅く、児童が待つ時間が発生したこともあった。また、画面のサイズは小学3年生だからこそ適切であり、発達段階に応じては、より大きな画面で共有できるiPadが向いていると考えられる。

なお、この問題は、現在発売されているiPad Airが処理速度も速く画面も大きく、軽量となっていることでおおむね解決できる。また、iPad mini 4も登場し、実践で用いたiPad

miniの第一世代よりも機能面は優れている。

しかし、学校教育の現場でタブレット型情報端末を活用する場合は、教科のねらいや目的に沿えることや、児童の学習意欲を高め学び合いを促進するツールとしての活用が求められる。今後も、学習状況に応じたタブレット型情報端末の使い分けをしながら、より効果的な授業づくりに取り組むことが課題である。

なお、参考資料として、本実践の単位に関する評価規準、指導および評価計画等を巻末に掲載する。

謝 辞

本研究の実践のために越谷市立大沢小学校校長荒井一郎先生をはじめ、同校の先生方には多大なるご協力をいただきました。また、日本地理教育学会評議員中山正則先生には、授業の構成にあたりご指導をいただきました。ここに改めて感謝の意を表します。

文 献

- 1) 文部科学省「教育の情報化ビジョン」, 2011
- 2) 文部科学省「学びのイノベーション事業 実証研究報告書」, 2014
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領社会編』,

2008

- 4) 今田晃一「iPadの教育活用・連載①協働学習につながるグループ学習に活用」, 教育家庭新聞, 2012年7月2日号
- 5) 今田晃一「教育におけるデジタルの可能性-授業づくりおよび学習指導上の留意点-」, 『文教大学教育研究所紀要』, 第22号, pp.75-84, 2013
- 6) 同掲書3)
- 7) 今田晃一「教育におけるデジタルの可能性②-デジタルミュージアム構想と博物館の学び-」, 教育家庭新聞, 2013年8月5日号
- 8) 松岡路秀・今井英文・山口幸男・横山満・中牧崇・西木敏夫・寺尾隆雄『巡検学習・フィールドワーク学習の理論と実践』, 古今書院, pp.2-8, 2012
- 9) 同掲書5)

参考資料 小学校3年社会科 小単元名「今に残る昔とくらしのうつりかわり」

表1 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知 識・理解
地域の人々の生活の歴 史的な背景や地域社会の 発展を願ってきた人々の 生き方に関心をもち、地 域社会のよりよい発展を 考えようとしている。	地域の人々の生活の今 昔の違いや変化、人々の 生活の知恵を考え適切に 表現している。	地域の古い道具の具体 的事例を的確に見学、調 査したり、年表などの資 料を活用したりして、必 要な情報を集めて読み取 ったり、まとめたりして いる。	地域の人々の生活の変 化や人々の願い、地域 の人々の生活の向上に尽 くした先人の働きや苦心を 理解している。

表2 小単元の指導計画と評価計画

○内の数字は時間を表す。

関：関心・意欲・態度

思：思考・判断・表現

() は評価の方法を表す。

技：観察・資料活用の技能

知：知識・理解

学習 過程	○学習活動・学習内容	○指導上の留意点 評価基準 () 評価方法	資料・ICTの活用
つ か む	<p>① 昔と今の写真を見比べて気付いたことを発表する。</p> <p>わたしたちのまわりには、どんな古い道具が残っているのだろうか。</p> <p>○身のまわりにある古い道具探しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランプ ・洗濯板とたらい ・かまど など <p>○「昔の暮らし」の映像を視聴し、便利さを追究する人々の営みのイメージを持つ。</p> <p>○古い道具について、わかったことや感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の名前 ・いつごろ使われていたものなのか。 ・どんな色か。 <p>わたしたちの身のまわりには、くらしに使われた多くの古い道具が残っている。</p>	<p>○便利さを求めて努力してきた人々の営みを動画資料の「昔の暮らし」から、理解できるようにする。</p> <p>関 古くから残る道具に関心をもち、映像をよく見て意欲的に調べようとしている。 (発言・ノート)</p>	<p>・「昔の暮らし」 (NHK for School)</p> <p>ICT 52インチTV 一斉視聴</p>
	<p>②③洗濯板の体験を行い、学習問題を導き出す。(体験)</p> <p>古い道具を体けんして気付いたことを話し合おう。</p> <p>○洗濯板の使い方の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板の使い方 <p>○古い道具を使ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板を使って、自分の靴下を洗う。 ・全自動洗濯機との比較をする。 <p>○古い道具を使ってわかったことや感じたことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題をつくる。 ・学習問題に対する予想を考え、ノートに表現する。 <p>〈学習問題〉 道具のくふうによって、人々のくらしはどのようにかわってきたのだろうか。</p>	<p>○実際に洗濯板を使うことにより、洗濯の大変さや道具の工夫などを感じ取れるようにする。</p> <p>○水道から離れた場所にたらいを設置し、水を運ぶ大変さにも気付くようにする。</p> <p>○昔と今の暮らしの違いに着目し、学習問題づくりを行う。</p> <p>思 古い道具の説明を聞いた、体験したりしたこと、分かったことや感じたことを話し合い、学習問題を見いだす。 (発言・ノート)</p>	<p>〈洗濯体験〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板 ・たらい ・石けん ・汚れた靴下 ・バケツ <p>ICT 52インチTV ・体験時の写真、映像</p>
	<p>④ 昔の暮らしの様子を話し合い、旧中村家住宅の見学の計画を立てる。(事前学習)</p> <p>昔のくらしは、どのような様子だったのだろうか。</p>	<p>○教科書の挿絵より、古い道具に着目させ何をどのように使うかを話し合わせるようにす</p>	<p>ICT 52インチTV (旧中村家住宅の様子)</p>

	<p>○教科書p88-p89の絵を見て気付いたことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使っている道具 ・仕事の様子 ・家のつくり ・着ているもの <p>○昔の暮らしと今の暮らしの違いを話し合う。</p> <p>〈話し合いの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこがどのように違うか。 ・暮らしの様子が違う原因は何か。 ・分からないことや、もっと知りたいことは何か。 <p>○旧中村家住宅の見学の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示物 <p>地域のお年寄りが子どものころは、いろりやかまどなどの昔の道具を工夫して使っていた。</p>	<p>る。</p> <p>○古い道具を使っている様子や家のつくり、着ているものなどから、そのころの暮らしの様子について話し合わせるようにする。</p> <p>技 古い道具や昔の暮らしの様子について、絵から読み取っている。</p> <p>(発言・ノート)</p>	<p>タブレット型情報端末 (旧中村家住宅のデジタルコンテンツ)</p>
調 べ る	<p>⑤⑥旧中村家住宅を見学する。1月22日実施 (フィールドワーク)</p> <p>旧中村家住宅を見学して、昔のくらしの様子や昔の道具の使われ方を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学して気がついたこと ・見学して分かったこと ・見学して考えたこと ・見学してさらに疑問に思ったこと 	<p>○旧中村家住宅をテーマごとに見学し、昔の道具の仕組みを調べる。</p> <p>○自分のテーマに沿う展示物を写真に収めるようにする。</p> <p>関 自分の課題を観察したり質問したりして意欲的に調べている。</p> <p>(行動観察)</p> <p>技 調べたことを分かりやすく表現している。 (しおり)</p>	<p>ICT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型情報端末 (写真・動画撮影、見学先のデジタルコンテンツ・GPS) ・社会科見学のしおり (見学したことを記入) ・中村家住宅の人からの話 (現地では話を聞く)
	<p>⑦⑧⑨約30年前と約50年前の道具と暮らしの様子を調べ、絵カードや年表、映像にまとめる。 (振り返りムービー作り)</p> <p>道具はくらしの中で、どのように使われているのでしょうか。</p> <p>○約30年前の道具と暮らしの様子を調べる。(父母が子どものころ)</p> <p>○約60年前の道具と暮らしの様子を調べる。 (祖父母が子どものころ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暖房：いろり・火鉢→こたつ ・調理：かまど→ガスコンロ ・洗濯：洗濯板とたらい→全自動洗濯機 <p>○絵カードや年表にまとめる</p> <p>わたしたちの身のまわりには、くらしに使われた多くの古い道具が残っている。</p>	<p>○聞き取りを通して、昔の人の工夫や努力について関心をもてるようにする。</p> <p>技 古くから残る暮らしにかかわる道具などについて調べたことを絵カードや年表などにまとめている。 (絵カード・年表)</p> <p>知 古くから残る暮らしにかかわる道具を使っていた頃の暮らしの様子を理解している。 (絵カード・年表)</p>	<p>ICT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型情報端末 ・絵カード ・年表 ・昔の道具の写真
い か す	<p>⑩調べた資料を基に、道具や暮らしの移り変わりの様子を絵カードや年表にまとめて発表し、学習問題に対する自分なりのまとめを考える。</p> <p>○グループごとに作成した年表の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の移り変わり ・暮らしや出来事 <p>○道具年表を同じ道具で時系列に見て、分かったことや考えたことを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具や暮らしの移り変わりの様子 ・過去の暮らしにおける人々の知恵や工夫 ・年表にまとめること <p>○学習問題に対する自分なりの結論を考える。</p>	<p>○道具や暮らしは、人々の願いや知恵、努力によってよりよくなってきたことについて考えられるようにする。</p> <p>知 過去の暮らしにおける地域の人々の知恵や工夫を理解している。 (ワークシート・発言)</p>	<p>ICT</p> <p>52インチTV (発表時に使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・年表 ・昔の道具の写真

<p>⑪これまで調べたことを基にして、学習問題について話し合い、学習問題のまとめをする。</p> <p>○グループごとに作成したショートムービーの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の移り変わり ・暮らしや出来事 <p>○道具年表をテーマごとに見て、分かったことや考えたことを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具や暮らしの移り変わりの様子 ・過去の暮らしにおける人々の知恵や工夫 ・年表にまとめること <p>○社会の変化と道具の変化の関連を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の改良 ・くらしの向上 <p>○学習問題に対するまとめをする。</p>	<p>○道具や暮らしは、人々の願いや知恵、努力によってよりよくなってきたことについて考え、これからもさらに改良・向上させたいという思いをもてるようにする。</p> <p>思 調べたことを基に、学習問題について話し合い、結論を導き出し、表現している。 (ワークシート・発言)</p>	<p>ICT</p> <p>52インチTV (発表時に使用)</p> <p>タブレット型情報端末</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード ・年表 ・昔の道具の写真
<p>○身のまわりの古い道具には、昔の人の生活の知恵や工夫が込められており、道具の変化とともに地域の暮らしも変化し、便利になってきた。</p> <p>○現在の自分たちの生活は、祖先の努力の上に成り立っている。</p> <p>○昔は電気を使わない道具が多く、手を使って使うものも多かった。</p> <p>○暮らしの様子は常に変化してきている。</p>		


道具カード	
名前 ()	
道具の名前	かま・かまと
使っていたとき	およそ 100年前 ・60年前 ・30年前
絵	
使い方	① 米をあらう。 ② かまに米と水を入れる。 ③ まきを入れて火かけんをみなからたく。
感想	かまの底がくろくなっていたわけがわかった。台所があたたくなるけど、けむりだらけにならないかな。
今の道具でいうと	すいはんき

図1 フィールドワークで活用したワークシート